

蕨市多文化共生指針策定に係る市民懇談会（第3回） 議事録

日時	令和3年4月17日（土曜日） 開会：午前9時 閉会：午前11時
会場	蕨市役所 4階 第一・第二委員会室
出席	市民懇談会委員 林大樹、上野梢、荒井紀子、植田富美子、春山忠義、石村宗侑、ハーティハオ、鈴木幸義、金丸謙二、床次泰文、阿部恒夫、姜月 事務局 倉石尚登市民生活推進室長、津田美穂市民生活推進室係長、庄野彩子市民生活推進室主査、東裕美子市民生活推進室
資料	参考資料1 アンケートご協力のお祝い 参考資料2 アンケート調査ご協力のお礼 資料1-1 日本人住民向けアンケート調査結果 資料1-2 日本人住民向けアンケート各質問における自由記述・意見 資料2-1 外国人住民向けアンケート調査結果 資料2-2 外国人住民向けアンケート各質問における自由記述・意見 資料3 「多文化共生のためのアンケート調査」の概要 資料4 外国人・日本人アンケート比較 資料5-1 外国人住民への対応等業務に関する庁内アンケートについて 資料5-2 全庁各課の回答まとめ 多文化共生指針（案）

1. 開会（公開・傍聴希望者1名）

2. 議題

- (1) 多文化共生のためのアンケート調査（日本人・外国人）の結果報告について
議題の多文化共生のためのアンケート調査結果報告について、事務局から説明。

【質疑応答】

(会 長) 事務局から説明があった議題(1)について質問はありますか。

(委 員) アンケートをまとめていただきありがとうございます。アンケートの内容に関してではないが、先日、防災士という資格を取らせていただいた。地域防災の共助の大切さを感じている。(アンケートの内容で) イベントへの参加という外国人の方の項目が高いと感じた。蕨市の防災で、女性の参加やトイレの問題が少しずつ進んでいくなかで、外国人の方を半数近く招いて防災イベントの開催ができれば、ここで交流ができるし、地域課題がより鮮明に見

えてくるのではないかとアンケートを見て感じた。他の団体もそういったものを企画している。皆さんの人脈で、人を集めながらより現実に即した交流といったものが出てくるのではないかと感じた。

(会 長) 事務局はどうですか。

(事務局) 共助の力がアンケート調査結果で不足していることがわかった。増え続けている外国人の方にも、そういったことを意識してもらうため、必要であると事務局でも認識している。委員が言った通り参加・開催にあたっては、是非、皆様のご尽力を頂ければと思う。

(会 長) ありがとうございます。他にありますか。アンケートの結果と、それをまとめたものとを対比した説明が、やはり納得というかこの通りなのだろう。皆さんが感じて第1回市民懇談会に意見をいただいたものが出ている。言葉の問題、生活慣習、防災の話も出たが、人口約7万5千人で1割以上の外国の方が住んでいる。また、様々な国の方がいる。それを多言語化するのかわどうかは、この後、指針案に出てくるのかと思うが、特になければ次に進めたい。

(2) 外国人住民への対応等業務に関する庁内アンケートの結果報告について
議題の外国人住民への対応等業務に関する庁内アンケートの結果報告について、事務局から説明。

【質疑応答】

(会 長) ありがとうございます。それでは、議題(2)について、意見・質問はありますか。課によっては「回答なし」というところがあった。市民課や納税推進室などでは、通訳者(の必要性)や(外国人住民からの)問い合わせの内容がわからないといったものだった。このようなものが、指針に活かされていくのではないかと思う。特に、病院や先ほどの防災で消防署といったところでは多言語で対応をするのか。そういった事も含め、各課窓口の受付は非常に大変だろうと庁内アンケートをみて思った。それでは、この庁内アンケートについて質問・意見はありますか。

(委 員) 問5のなかで、多言語翻訳機の導入や通訳者の設置というのがある。多言語翻訳機に興味があったので、資料5-2でどの部署が回答しているのか探してみたが、3ページにさくら保育園というのがあった。そちらで翻訳機の導入が書いてある。それからもう1つ、4ページにさつき保育園があって、保育者との会話をスムーズにするためにポケットーク等の翻訳機の活用というのがあった。保育園というのは、こういう職場と違って相談ができないので、そういうところで翻訳機という具体的には(どういうものかは)よくわからないが、それが要望されているのは大事なのかと思う。実際には、どのような翻訳機が導入される可能性があるのか。

(事務局) 翻訳機については、各課独自で予算を取って導入している。多くがポケットークである。これは、ご存じの方が多いと思うが、当初は観光用に作られたもので、旅行に行った際に外国人と話すための道具として始まった。AI機能で学習機能がある。現在は、行政用語についても12カ国語くらいで対応する優秀な機械となっている。保育園とか納税推進室とか、そういったところでは利用されている。蕨市としてどういうものが適切なのかは、他の自治体や国が紹介する機械も含めて検討していきたいと思うが、ポケットークも優秀なので、おそらくその方向で導入が進むのではないかと感じている。

(委員) ありがとうございます。

(会長) よろしいですか。予算を付けて欲しいと言った声は聞いている。過去5年間の保育園の状況を調べてもらった。5年前よりも外国人の子供が大変増えている。この(日本人用)アンケート調査結果で答えた方は高齢者が多いが、学校や保育園のアンケートも上ってきている。これからの指針作りにも活かしてもらいたい。ざっと目を通すと、殆どが活かされていたが、皆さんの意見を入れ、現状を踏まえた上で、この先の蕨市多文化共生というまちづくりの中で(何が)なされていかなければいけないのか。また、防災の問題、病院の問題などもあると思う。他に議題(2)について質問はありますか。

(委員) まず、このような素晴らしい量的にも凄く緻密な資料を作っていただき感謝です。それで、翻訳機というもので参考になればと思うので話させてください。私は、マンションに住んでいるが、そこはトルコの方も住んでいる。もちろん、中国の方など色々な国の方が住んでいる。たまたま、廊下でトルコの方に会った。(私は)この方が英語で話されるかと思い、英語で話しかけたら「シー」と言われた。その方に「ちょっと待って」と言って、私は英語で話したことを録音した。(次に)それをトルコ語に直し意味が伝わった。今度「ちょっと待って」と、その方もトルコ語を英語にし、それを画面で私に見せてくれた。日常生活でも、例えばLINEにしてもいろんなツールを使えば、今は簡単に様々な方の言語を自分の得意な日本語で相手の国の言語に換え、その間に英語を入れたりフランス語を入れたり、様々な媒介を使って交流が民間でも確実にできるのではないかと思う。私は、資料をみた際にこの話をさせていただきたいと思った。その為、公共の機関でそのような形をとっていただけたら、民間でも直ぐに普及してくるのではないかと思う。是非、導入のほうを頑張って欲しいと思っている。

(会長) ありがとうございます。この事について事務局は何かありますか。

(事務局) 先程の通り必要な課には入っていくのではないかと思う。日本語を使うことにあたって、やはり機械に頼らなくても例えば、記述式アンケートのなかで、中国の方が非常に丁寧な字で、文章もしっかりしてアンケートに答えられている方が何人かいる。そういう方が、キーマンとなり日本語ボランティア教室のような形で外国人の方に教え、機械とは別にそういったコミュニケーションを取りながら、日本語に親しみ日本語を使えるようになっていく方向で

- 考えられるのではないかと感じている。
- (会 長) よろしいですか。これから指針案についても出てくるが、その中で補足するか、意見に入れていただけると思う。今の意見も頭の中に入れ、次の指針案のところを見ていただきたい。他に何かありますか。
- (委 員) 私はドイツのリンデンと46年交流をしているが、4年に1回はこちらから向こうに行っている。ポケットクの変換機は、やはりとても重宝してたくさんこちらから持っていく人もいる。向うでも、重要な会議で何人かが使い問題がない。普段も会話をする時にポケットクの機械が大変に便利である。でも、共生で互いに違う国の人達が、アンケート結果の中で蕨市にずっと住みたいと思っている外国人の方が大勢いた。ポケットクなどの機械は、初めはそれでもいいが、できれば外国人の方にも日本語を覚えていただきたい。ポケットクがあったとしても細かい文化の調整がなかなかできないと思う。よその国の文化というものは、互いに同じ言葉で会話をすることから始まる。また、一緒に生活することから始まると思う。入り口はポケットクでいいと思うが、室長が言った通り様々なところで日本語教室があったほうがいい。アメリカに留学している人の家族が学校へ行くと、子供の英語教室が放課後にある。その親もそこに参加ができる。その代わりに、地域の人達に日本語を教える。それが交流という風にアメリカの色々なところである。蕨でも、これだけ1割以上の外国人の方がいるのだから、仲良くしていかないと生活ができない。この結果を見ても「そうだろうな」と思うことばかりだ。日常生活のごみ出しで、挨拶したいと思うが会わない。生活パターンやリズムが違う。学校や何かの団体などでは、互いの共通の言葉を模索するといった努力が必要だと思う。やはり、保育園、学校などは、保護者も含めた日本語教室が開催されることを望みたい。そうすれば、子供は早く日本語にも慣れる。子供達が帰ってくるのを見ている、日本人は日本人の子供達と、中国は、中国人の子供達とでそのほうがぱっと通じて便利だ。こういう状況が出ているとすれば、日本語に慣れ日本語を話していただく外国人を多くするといった努力を私達はするべきだと思う。
- (会 長) ありがとうございます。いかがですか。この後、そういったところでは、やさしい日本語や、公民館でもそういう講座などがある。セブンイレブンに入ると、外国人の方が「どうぞ」とやってくれる。ベトナムなど駅前に外国の店もある。日本語が上手く、店をやっている人は（日本語に）不自由してないという評価もできるが、そうでないところではまだわからない。理解されてないところの問題や、大きな声で話をしているなど出てきている。これからの指針作りに活かしていけるのではないかと思う。他に、庁内アンケート結果で、何かこれはどうかという意見がありますか。
- (委 員) 私の娘が3年生になったが、日本人にとっても外国人にとっても子育てをしていくと、最初に地域と関わるのが保育園だったり幼稚園だったりというのは多いと思う。やはり言葉の壁や、日本語を学ぶ必要性を感じる機会がある。

例えば、保育園などで「今日はこんなことがありました」という1日の経緯を先生がしてくれる。学年が大きくなってくると、交換日記もやってくれたりするが、そういった中で少しずつやさしい日本語などで提示をしていく。後は、日本語教室の案内などその保育園で配ることが出来れば、必要に感じた時に必要なところから、日本語教室の案内がくることで参加しやすくなる。そういった対応ができたりするのではないか。

(会 長) 事務局はどうか。

(事務局) ご指摘の通りです。

(会 長) 意見を承ります。それでは、議題(2)につきまして、他に意見・質問はありますか。日本語学校の方もいるが、蕨市の庁内アンケートを見て意見などありますか。

(委 員) 自動翻訳機やポケトークなどは精度がかなり上がってきている。私どもの学校でも、特に来たばかりの新入生に対し、そういったものに頼る時が結構ある。例えば、英語からトルコ語にした場合、翻訳された言葉の精度はどうしても私達で確認できない。だから、ひとつそれを確認する方法があり、逆翻訳といっている。例えば、1回トルコ語にしたものを、もう一度英語または日本語にした場合で、ある程度、精度が高く翻訳されたかということがわかる。例えば、「ダイヤが乱れて電車が遅れました」で日本語を使って翻訳し、それを逆翻訳した時に「ダイヤモンドが壊れましたから電車が遅れました」と出てくる言語が半数以上だった。だから、今回の情報共有で伝えたいのは、やさしい日本語はそういった時に役に立つ。これは、電通さんの翻訳方法ですが、電通さんでかなりの量の翻訳をこなさなければならず、殆どAIに頼らざるを得ないらしいが、そこでやさしい日本語を上手く使って翻訳機にかけると、かなりの精度で翻訳ができる。そういう風にしてやさしい日本語の普及を進めているらしい。この状況も庁内も同じだと思う。翻訳の機械が凄く必要だが、そこに人力の通訳を当てる訳にはいかない。だから、やさしい日本語の普及というのは、ポケトークとか自動翻訳機が普及してきたところでも同時に、必要になってくるのではないかと意見を共有させていただきたい。

(会 長) ありがとうございます。アンケート結果をみて、日本の方達が「おはようございます」と挨拶するが、それ以上の会話ができないから、ごみ捨てに行った時でもさっと帰って来くる。何となくふれあいたくても、それ以上の「言葉ができない」といったアンケートの結果も多かった。言葉が通じなくても、ジェスチャーなどでやさしく対応するなどし、同じ町会で住んでいる方に接していくことが、大事なことはないかこのアンケート結果をみて思った。他に議題(2)に関する意見・質問はありますか。特になければここで終了したい。続いて、議題(3)の多文化共生指針(案)について、事務局から説明をお願いします。

(3) 多文化共生指針【案】について

議題の多文化共生指針【案】について、事務局から説明

(会 長) 質問・意見やこれを追加したらいいのではないかと、などあれば受けつけたいのでどうですか。指針案というものがきめ細かくできていると思うが、不足するものとか、これはどういうものなのかなどあれば、委員からの発言が大変ありがたい。

(委 員) 資料を作っていただき、市民活動推進室の中では大変な苦勞をされたのかと思う。また、今回、第3回目が2回程延期になった。コロナ禍の関係などもあり、会合ができなくなりさぞかし苦勞されたかと思う。まず、それに対してお礼申し上げたい。それから、とても立派な指針案だが、これを実行に移さないと意味がないということで、市民懇談会はこれで終了なのか。まだこれからも続くのか。

(事務局) 後、1回はあります。

(委 員) このような機会に参加させていただいたが、この指針案で何も言うことは無い。また、次によろしくお願ひしたいと思う。

(委 員) このような細かい資料を作っていただきありがとうございました。多文化共生指針案に対して特に意見はない。

(委 員) 指針を作られているところなので、これから具体的な施策を展開していくことになると思う。15ページの就労支援という形で、やはり企業さんが外国人労働者を受け入れる際に、どうしても社員教育がままならなく、二の足を踏んでいる現状がある。日本人の社員教育をする時は、ある程度対応できるが、外国人向けのとなると、やはり通訳やいろんな費用が掛かってくる。そういったものが企業として集団でもいいが、何社かまとめていただき、そういった際に費用のサポートができるような仕組みを、是非、予算化していただきたい。後、【イ】のところでは就業環境の整備促進も、館内の札を付けさせていただいている企業で、外国人経営者の方がかなりの割合で増えてきている。やはり、日本のコンプライアンスの理解が低いというようなところもある。そういった事も含め、ここに出ているような社会保険関係の加入もだが、そういったところを是非、積極的にご支援いただけるとありがたいと感じている。後、先程ポケットークの話が出ていたが、コロナ禍に入って、私も緊急事態宣言に端を発する飲食店さんの時短営業にともなう協力金や、緊急事態宣言下で影響を受けた企業さんの一時支援金というものも、認定機関で確認させていただいている。これまで、普段付き合いのない外国人経営者の相談をいただくが、会話の意思疎通が上手くいかないという課題もある。どうしても専門的な決算書だったり、領収書だったりいろんな確認書類で、具体的なものを提出いただきそれを検査しなければならない。それらが上手く伝わ

らない場合がある。逆に企業さんの方も、上手くいなくて先に進まなく、要は手続きができない状況で、現在、何件か案件を抱えている。そういった意味でも是非、こういったものが導入出来るような、逆に、日本人経営者の店においても、ポケットクにいかないまでも、多言語表記のメニューを作るなど、行政のほうでも支援できるものを打ち出していただけるとありがたい。外国人のお客様を受け入れようという形で、多言語教育を独自でやった企業さんは売上が伸びたりしている。是非、地域経済を発展させるという意味でも、互いに協力して客になってもらうといった仕組みができれば、地域経済としても発展を遂げるのではないかという風を感じている。

(委員) 私は留学生です。日本人と他の外国人と付き合っ、日本の文化をもっと勉強したり、お祭りやイベントをしったりして欲しい。以上です。ありがとうございます。

(委員) 先程も発言させていただいたが、現在、PTAでは会長を、町会では副会長を非常に力不足ながらやらせていただいている。PTAでは今年、事務局というか執行部の役員を応募したが、15人中3人の中国の方が手を挙げていただいた。男性の方、女性の方がいる。また、PTAでは、学校で旗振りのお願いをする時など、入会のお願いをする中国語の案内も必要で、そういったところをやっていただけるだろうと、昨年からはまった動きで目指していたところだが、逆に「そういった事ならばお手伝します」と立候補が出てきている。やはり、これだけ割合も増えてきているので、担い手としても一緒にやっていかないと、イベントや活動自体が盛り上がらないと感じている。後は、町会などで自分からなるべく声を掛けながら、役員になっていただくといった動きをやっていきたい。王子国際語学院さんが同じ町内会なので、コロナ禍で何もできないが、公園の清掃など、そういうところから少しずつ手を組み一緒にやっていければいい。何かいい事例を少しずつ作ってきたい。

(委員) 先程、委員が言った通り、自分も話をしたいところがある。例えば、私は小さな会社を経営しているが、商工会議所のほうで中国語のできる方が欲しい。私は、子供が2人いるが、学校で先生と日本語ができない中国人の子どもとの間の通訳者みたいな感じだ。だから、税務署でもいろんなところでも、1人通訳者がいた方がいいのではないかと思う。先程の通訳機は、実は、私もよくYahooニュースなど見ているが、日本語がわからなくて中国語に翻訳すると、殆ど中国語はわかり難い。だから、1人通訳者がいたらいいのではないかと思う。昨日、銀行の紹介で川口商工会議所の会員になった。本当に色々素晴らしい制度があるのを初めて知った。通訳者1人が蕨でもいれば、気軽に相談できる。今、仕事を探している外国人が多くいる。商工会議所や市役所に1人の外国人がいた方が、私はいいと思う。以上です。ありがとうございます。

(委員) 以前、多言語でアンケートを作成する方が、回収率がいいのではないかとい

う希望を出した。このような立派なアンケートの結果が出て、それによって施策ができたことがありがたいし、嬉しいことだと思う。この結果をみて、永住者の資格を持っている方が非常に多いということにビックリした。文化協会から参加させていただいた立場として、自分に何ができるかということを考えてみた。先程、日本の文化というものを「もっと知りたい」と発言していた。文化協会は17団体あり、その成果を1年に1回は、文化祭の発表という形で毎回行っている。例えば、舞踊連盟は1年に1回市民会館で行う。合唱はやはり合唱の発表会をする。そういった時にパンフレットを配布している。それが、日本人だけに対するものばかりだが、外国の方がそういう文化にふれるチャンスの手引きになるのではないかと思う。「学ぶは学ぶことから始まる」というか、日本人は言葉があまり必要なく、子供は真似をしてだんだん覚えていく。私の知っている中国の方は、日本人の子供を対象にした舞踊の体験教室に通っていた。そこに参加し、日本大学の芸術学部にまで入り、中国に戻って踊りの先生をやっている。そこまで日本の文化にのめり込んでいただくと、非常に嬉しい気分になる。少なくとも、文化協会の17団体の発表会を外国の方にも知らせて観ていただきたい。そして学ぶ・真似るところから日本文化が伝えられたらいいと思う。

(委員) 私は蕨市で35年以上住んでいる。そして蕨の国際交流の関係も10年ばかり参加しているが、今回のアンケートと指針案を見て勉強になった。新しく知ったことがある。大きな点では2点だ。1つ目は、蕨市在住外国人で、永住者など要するに長く住んでいる人が多い。ただ、マスコミで報道されている在住外国人の方では、いわゆる技能実習生の方が、不法就労とか賃金が安いとかそういったことが割と多いのではないかと思う。このアンケート結果で、永住者が多いということを改めて知った。その人達と一緒に共生していく為には、どうしていくのかと指針案で出てきたが、教育の問題、衛生の問題、健康の問題、いろんなところに気を配る必要があるということを感じた。2つ目は、蕨の国際交流関係に関わって、他のところでも色々やっているが、多文化共生というのはスポットではダメだと思う。私自身は歌を知ったり踊りを知ったりなど、そういう多文化のこと、日本の芸能を教えることを知らせることもそうだが、「定期的にやれば多文化交流になっている」といった自分自身の満足感があった。しかし、今日のアンケート結果及び指針案をいただいて、日常的に多文化共生に接する姿勢がなければダメだということを実感した。私自身は、ふとしたきっかけで外国人との交流をもってきた人間だが、自分が住んでいる場所で多文化共生をやはりこの指針案に基づき、改めてやっていかなければならないと実感した。ありがとうございました。

(委員) 先程も発言したが他の角度で話をしたい。私は、マンションに住んでいるが管理組合というものがある。それを毎年選出するのが至難の業になる。色々順番はあるが、それぞれその年によって状況が違う。それで現在やっている役員が、5人いるところ3人が中国の方になっていただいた。2人が日本

人だ。そして、私が提案し、理事長を中国人、会計も中国人で3人が重要なポストに就いていただいた。「なんで中国人の方なのか」と不信感をもたれる方も小耳に挟むが、実は、その方はマンションを買われているから長く住むということ、さらに職業が日本のホテルで働いているということだった。私が依頼した際に「マンションもホテルも同じではないか」と言った。やはり皆さん住まいのこと、その環境のこと、全て同じではないかと思う。そして、やっつけていけないのではないかと説明した。1つ返事で「やらせて下さい」だった。現在5月まで在任期間がある。そのような形で、マンションで理事長を中国の方、しかも外国の方が多いというようなことで実現させていただいたのは、私達のマンションだけではないかと思う。これは信頼関係です。外国人だから「ダメだ」ではなく人間みんな同じ、顔は違えども思うことはみんな同じで、信頼してわからないことは大いに教えてあげれば理解できるようになる。互いに心を開いて教え合うという心を持てば、色んな困難も実現できるのではないかと日頃から思っている。

(会長) 立派な指針案が出来あがり、これが、ただのまとめであってはいけないと思う。委員の皆さんが言う通り、これがどのように推進されていくかが今後の問題だと思う。蕨には7千人位の外国の方がいるが、登録人数であり非登録の方、登録をしてない方も随分いるのではないかと思う。クルドの方達はカウントされていないと思っている。今後、そういった方達とのコミュニケーションも必要となっていくと思う。私は、指針に沿って多面的にたくさんの推進母体ができるということが大切だと思っている。是非、そういった実現化をしていただきたい。

(委員) 私は申し上げたいことがある。資料1-2の日本人住民向けアンケートの自由記述の意見が書いてある中に、6ページ27番の方が「言葉の問題等で学校についていけない子供達に教える取り組みがあり、ボランティアで参加しようとしたが、免許をもっていないので断られた」と大変不満を持ち一種の苦情のような形で言っている。とても勿体ない話だと思う。こういう意欲や、そういう力のある方がどうしてそうなるのかと思う。指針案はとても良いと思うが、11ページから12ページにかけて「(2)生活支援②教育」で、教育に関して非常に充実した施策のラインアップが示されていて、これはとても良いが、ただ思ったのは「ア.日本語教育の推進に係る体制整備」、「オ.日本語の学習支援」教育の推進で日本語というのが付いている。日本語となると、日本語教師とか資格を持っていないと集まり難いということがあると思う。日本語以外の学習支援はたくさんあるわけだが、むしろ、学校で外国人の子供達が、日本の小学校や中学校に行って学ぶことで、日本語以外の科目がたくさんある。でも、日本語がわからないと他の科目が勉強できないということで、日本語教育というのが推進されるが、必要なことだが、それが日本語教師の資格がないとボランティアもできないとが大変勿体ない。そうすると、もっと色んなボランティアが、参加できる可能性が広がってくると

いう風に思った。日本語学習支援に関しても、日本語の学習支援に限定しないような出し方ができないのかと思う。

(事務局) 日本語教師の資格がないとダメだということにビックリしている。ご存じの方が多と思うが、資格を持たない方が各公民館で日本語教室のボランティアをやっている。資格に限らずやっていた方が多数いる。そういった事がないよう、行政としての受け入れ体制にしていかなければならない。提案いただいた通り、日本語に限定しない支援の在り方、そういった事も今後、行政の中で考えていきたいと思う。こちらは、あくまでも指針案であり、これから庁内連絡会や行政内でさらに揉んでいく形になる。だから、こちらに新しく加わるものもあるだろうし、削除されることもあるであろう事は、予めご了承いただきたい。また、ある程度完成になり、皆さんに提出して意見を伺う機会を設けるかもしれないことを了承してほしい。

(会 長) 後1回は、懇談会を開いて最終的なものは承認していただく形にはなると思う。コロナ禍で先行きが見えない状況で、どこも書面開催しているが、これは大事な事なので2カ月も遅れてしまったことは申し訳なかったと思う。これだけまとめていくというのは大変で、アンケートは量も多くてよくやっていただいたが、作っただけではダメで指針ができたなら、どのようにそれを地域に実現していくかということがとても大事ではないかと思う。コロナやウィルスなどの感染時期がくると、文化等色んなことが大幅に変わっていくと聞いている。これが良い機会だと思う。それでは、議題(3)について以上でよろしいですか。

(4) その他

(会 長) 議題(4) その他ですが、何か事務局からありますか。

(事務局) 今回は特にごませせん。

(会 長) 非常に皆さんに良い意見をいただきました。それでは、ここで議長の任を下ろさせていただきます。事務局に進行を戻します。

(事務局) 会長ありがとうございました。本日は、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。以上をもちまして、蕨市多文化共生指針策定に係る市民懇談会第3回会議を修了させていただきます。本日はありがとうございました。

3. 閉会